

特定看護師（仮称）養成 調査試行事業

実施課程概要

参考資料 1－1 特定看護師（仮称）養成 調査試行事業 実施課程概要（1）

参考資料 1－2 特定看護師（仮称）養成 調査試行事業 実施課程概要（2）
（修得を目指す医行為）

特定看護師(仮称)養成 調査試行事業 実施課程概要(1)
(A) 修士課程 調査試行事業

大学院名(分野名)	(A-1) 大分県立看護科学大学大学院 看護学研究科(老年)	(A-2) 大分県立看護科学大学大学院 看護学研究科(小児)	大学院名(分野名)	(A-3) 大阪府立大学大学院 看護学研究科(急性期)	(A-4) 大阪府立大学大学院 看護学研究科(がん)
本養成課程のねらい ・目指す特定看護師 活動の場・分野、 実施内容 ・効果	<p>・適格な包括的健康アセスメント能力、クリニカルマネジメント能力、高度な看護実践能力、倫理的意思決定能力かつ多職種との協働能力を備え、プライマリケアを提供し地域で活動できる特定看護師(仮称)を目指す。</p> <p>・高齢者(成人を含む)に対して、慢性疾患(糖尿病・高血圧症・慢性閉塞性肺疾患など)の継続的な管理・処置、軽微な初期症状(発熱、下痢、便秘等)の診察や検査、必要な治療処置を行い、医師と連携し、一般病院の外来、訪問看護ステーション、老人保健施設等で活動する。</p> <p>・タイムリーで公平・公正、きめ細やかな医療サービスを提供することにより、患者・家族のQOLの向上および満足度の向上に寄与する。</p>	<p>・適格な包括的健康アセスメント能力、クリニカルマネジメント能力、高度な看護実践能力、倫理的意思決定能力かつ多職種との協働能力を備え、プライマリケアを提供し地域で活動できる特定看護師(仮称)を目指す。</p> <p>・小児に対して、慢性疾患(気管支喘息、I型糖尿病、状態が安定した重症心身障害児など)の継続的な管理・処置や軽微な症状に対する初期処置を行い、一般病院の外来、小児科クリニック、重症心身障害児施設、社会福祉施設等で活動する。</p> <p>・タイムリーで公平・公正、きめ細やかな医療サービスを提供することにより、小児患者および家族のQOLの向上および満足度の向上に寄与する。</p>	<p>・当課程急性看護分野では、急性・重症患者看護における国民のニーズに応えるため、自律した判断と実践能力を備えた看護師の育成を目指している。</p> <p>・病院において、フィジカルアセスメントを実施し、必要に応じて検査を実施することによって、迅速に病態の変化にあわせ対応することが可能となり、患者の合併症の予防、症状の早期改善、患者・家族の不安の軽減等、サービスの向上につながるものと考えている。</p> <p>・また、生命を脅かすような危険な健康問題に対する呼吸・循環・代謝その他集中的な全身管理を必要とする急性・重症患者に、医師の包括的指示のもと、検査による患者の状態の把握、必要な医療処置の実施、モニタリングといった一連の行為を行うことが可能となり、患者のQOLや満足度の向上につながるものと考えている。</p>	<p>・がん各期において、複雑で解決困難な看護問題をもつ個人、家族、集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するために、がん看護学分野の知識・技術を高め、多職種協働のチーム医療を推進しながら保健医療福祉の発展に貢献できる看護師を養成する。</p> <p>・病院において高度な知識・技術を用いた教育・指導を行うとともに、がん治療に伴って生じる問題に予防的に介入し、自立・自律して質の高い療養生活を送れるようにする。</p> <p>・また、全人的苦痛に対して、がん病態や薬理に関する知識やアセスメント技術を用いて多角的にアセスメントを行い、医師の包括的指示のもとに効果的な方略を判断、実施、評価することで、患者・家族の苦痛緩和と生活の質の向上を目指す。</p>	
修習終了時必要単位数・時間数	45単位/1,240時間	45単位/1,240時間	30単位/765時間	36単位/750時間	
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	6単位/124時間 フィジカルアセスメント学特論 診察・診断学特論 老年アセスメント学演習	6単位/124時間 フィジカルアセスメント学特論 診察・診断学特論 小児アセスメント学演習	2単位/30時間 運動生理学	6単位/90時間 共通特論Ⅲ(臨床腫瘍学各論) 共通特論Ⅱ(臨床腫瘍学総論) 運動生理学	
臨床薬理学 単位数/時間数	4単位/82時間 臨床薬理学特論 老年薬理学演習	4単位/82時間 臨床薬理学特論 小児薬理学演習	4単位/60時間 臨床薬理学 単位数/時間数 生体情報論 代謝病態生理学	8単位/120時間 生体情報論 共通特論Ⅰ(腫瘍病態生物学) 共通特論Ⅱ(臨床腫瘍学総論) 代謝病態生理学	
病態生理学 単位数/時間数	4単位/106時間 病態機能特論 老年疾病特論	4単位/106時間 病態機能特論 小児疾病特論	4単位/60時間 病態生理学 単位数/時間数 生体情報論 代謝病態生理学	8単位/120時間 生体情報論 代謝病態生理学 共通特論Ⅰ(腫瘍病態生物学) 共通特論Ⅲ(臨床腫瘍学各論)	
演習 単位数/時間数	6単位/100時間	6単位/100時間	6単位/180時間	6単位/150時間	
実習 単位数/時間数	14単位/560時間	14単位/560時間	6単位/270時間	6単位/270時間	
全教員・指導者数 (専任・准専任の教員・指導者数)	131人(37人)	101人(34人)	52人(6人)	151人(67人)	
養成 数	1年次 4人 2年次 7人	2人 1人	1年次 3人 2年次 3人	6人 3人	
実習施設	■病院 ■診療所 ■老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 ■診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	

注1 詳細については確認中
注2 フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学、演習科目には選択科目及び再掲科目を含む。

大学院名・分野名	(A-5) 岡山大学大学院 保健学研究科(がん)	(A-6) 熊本大学大学院 保健学教育部(精神)	A-7 慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科(老年)	(A-8) 高知女子大学大学院 看護学研究科(がん)
本養成課程のねらい	<p>・本課程では、がん看護分野において、ケアとキウアを融合させた高度な知識と技術を用いてがん患者の診断・治療・療養過程全般を管理し、自律性のある判断と実践能力を備えた特定看護師(仮称)の育成をめざしている。</p> <p>・病院特になん診療の専門施設において、フィジカルアセスメントを実施し、医師の包括的指示のもと、検査のオーダーとその評価を行うことが可能となり、それに基づいた薬剤使用の判断、薬剤の選択・投与、医療処置の中止の判断と実施により、</p> <p>・患者がその時点で体験している心身の苦痛や不快な症状を速やかに緩和するとともに予防することにより、患者の療養生活のQOLを向上させ、患者や家族の満足につながるものと考えている。</p>	<p>・本教育課程では、身体疾患で適応障害をもつ患者ならびに入院が2回目以降の精神疾患患者で合併症をもっていない患者に対し、包括指示のもと、1.病態に応じた向精神薬の選択と使用、その効果の判定、2.向精神薬の副作用に対する対応、3.精神療法、4.精神科ケース・マネジメントが展開できる自立した高度看護実践家としての特定看護師(仮称)を養成する。</p> <p>・活動は桜ヶ丘病院および菊陽病院にて精神看護学実習及び疾病管理実習を通して患者を常時受け持ち、指導教員ならびに医師の助言を得ながら実施する。</p> <p>・これらを行うことで患者の状態の変化に応じた薬物治療の選択や対応の方法が明確となり、患者の症状や状態の早期回復、状態の悪化予防、精神障害者の退院促進や地域生活の安定化を促進することができる。</p>	<p>・複雑な健康問題を持つ高齢者の健康・生活状態と家族を包括的にアセスメントし、援助計画に基づいた援助を行い、チームメンバーや社会資源との相談、調整、連携を図り、実施効果を評価できる能力を養う。</p> <p>・特に、慢性期高齢者の多い病棟、療養型病床、高齢者施設において高齢者の生活機能が維持できるよう、フィジカルアセスメントに基づいて必要な医療内容の調整や状態変化時の早期の対応ができる特定看護師(仮称)の育成をめざしている。</p> <p>・また、病院、施設における高齢者の終末期において、高齢者と家族が望む、苦痛のない安らかな最期を迎えられるよう、医療行為を含む適切な生活援助を継続的に実施できる能力を養う。</p>	<p>・複雑で対応困難な問題をかかえるケースに対して、がん看護に関連する高度な知識と技術を用いて、がん患者とその家族のQOL向上をもたらし卓越したケアを提供できる能力をベースに、がん診療連携拠点病院の医師と連携・協働して、ケアとキウアを融合させた高度な知識と技術を用いてがん患者の療養過程全般を管理し、ケア提供ができる特定看護師(仮称)をめざしている。</p> <p>・がん診療連携拠点病院において、医師の包括的指示のもと、疼痛マネジメントにおけるアセスメントと症状緩和、がん化学療法中の有害事象のマネジメントと栄養管理、放射線療法中の有害事象のマネジメントを行う。</p> <p>・患者の症状緩和、患者・家族のQOLの向上が期待できる。</p>
総単位数・時間数	47単位/975時間	44単位/1,050時間	40単位/780時間	36単位/780時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	3単位/45時間	4単位/60時間	2単位/60時間	2単位/30時間
臨床薬理学 単位数/時間数	1単位/15時間 がんの臨床検査・病理診断・放射線診断学	4単位/60時間 アドバンス・フィジカル・アセスメント 精神看護援助論	4単位/120時間 高齢者健康生活評価法	2単位/30時間 フィジカルアセスメント特論
病態生理学 単位数/時間数	7.5単位/112時間 がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学 疼痛マネジメント・薬物療法 痛みのマネジメント	4単位/60時間 児童・成人精神看護治療学 最新臨床精神薬理学	2単位/60時間 高齢者健康生活評価法 認知症高齢者看護演習	4単位/60時間 がん薬理学 がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学(e-ラーニング) 疼痛マネジメント・薬物療法(e-ラーニング) 痛みのマネジメント(e-ラーニング)
演習 単位数/時間数	39単位/580時間	2単位/60時間	8単位/210時間	3単位/45時間
実習 単位数/時間数	9単位/405時間	12単位/540時間	6単位/180時間	8単位/360時間
全教員・指導者数 再任 医師の教員・指導者数	87人(49人)	41人・10人	22人(6人)	79人(25人)
養成数	1年次 1人 2年次 7人	3人 3人	1人 2人	4人 0人
実習施設	<input checked="" type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 老人保健施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 老人保健施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 老人保健施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 老人保健施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> その他

大学院名(分野名)	(A-9) 高知女子大学大学院 看護学研究科(老人)	(A-10) 高知女子大学大学院 看護学研究科(小児)	大学院名(分野名)	(A-11) 高知女子大学大学院 看護学研究科(精神)	(A-12) 高知女子大学大学院 看護学研究科(在宅)
本養成課程のねらい ・目指す特定看護師 ・活動の場・分野 ・実施内容 ・効果	<p>・本課程では老人看護領域において、高齢者特有の複雑な健康課題に関する高度な知識と介入技術を有し、高齢患者とその家族のQOL向上に貢献しうる自律的判断と実践能力を有した特定看護師(仮称)の育成をめざしている。</p> <p>・病院・老健施設において、医師の包括指示のもと、不眠・夜間せん妄・脳血管障害患者の嚥下障害に対するフィジカルアセスメントと対処を行うと同時に、退院/施設移行に関する時期の判断と医療連携を行う。</p> <p>・迅速な病態判断と症状改善/危険防止の対策を講じることは、高齢患者の療養生活におけるQOL改善が期待できると共に、適切な退院/施設移行と医療連携を行うことは、介護家族にとっても満足度とQOL向上が期待できる。</p>	<p>・当課程では、小児看護分野での国民のニーズに応えるため、自律した判断と実践能力を備えた看護師の育成を目指している。</p> <p>・病院において、フィジカルアセスメントを実施し、医師の包括的指示のもとに、心不全症状のある子どもの症状緩和、心臓カテーテル検査を受ける子どもの検査前後の管理、喘息の子どものトリアージと子ども・家族のアドヒアランスの強化、退院に向けた低出生体重児の症状コントロールに向けた生活指導と訪問看護依頼を行う。</p> <p>・子どもの苦痛の緩和、症状コントロール、子どもや家族のQOLや満足度の向上</p>	<p>・困難な問題を抱えたケースに対して、精神科看護に関する知識・技術を基盤に、医師と連携・協働して、ケア(Care)とキュア(Cure)を融合させた高度な知識と技術を用い、精神科疾患患者の治療・療養過程全般のケアができる特定看護師(仮称)を目指している。</p> <p>・精神科病棟および精神科病院において、医師の包括指示のもと、軽度～中等度のうつ状態の患者の認知行動療法、または支持的精神療法による社会復帰支援、入院治療を受ける患者の排便に関するケア、訪問看護・デイケア等の導入と継続の判断・決定を行う。</p> <p>・患者・家族のQOLの向上が期待できる。</p>	<p>・在宅療養者と家族の自立とQOLの向上をもたらし卓越したケアを提供できる能力をベースに、さらにアドバンスな身体状態の査定、疾患の評価や治療について修得し、主治医等と連携・協働して、ケア(Care)とキュア(Cure)を融合させた高度な知識と技術を用いて在宅療養者の治療・療養過程全般を管理し、ケアを提供する特定看護師(仮称)の育成を目指す。</p> <p>・訪問看護ステーションにおいて、医師の包括的指示のもと、訪問看護の導入、継続への介入、高齢者の心肺機能障害に伴う症状コントロールに向けた生活指導、排泄コントロール、栄養管理、褥創ケアへの介入を行う。</p> <p>・在宅療養者の症状コントロールや、療養者と家族のQOLや満足度の向上が期待できる。</p>	
課程終了時必要単位数・時間数	34単位/750時間	32単位/660時間	37単位/750時間	32単位/660時間	
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	3単位/45時間 老人診断・治療学 フィジカルアセスメント特論	4単位/60時間 フィジカルアセスメント 小児看護対象論	2単位/30時間 フィジカルアセスメント特論	2単位/30時間 フィジカルアセスメント特論	
臨床薬理学 単位数/時間数	1単位/15時間 老人薬理学	1単位/15時間 小児薬理学	1単位/15時間 精神看護学演習Ⅱ	2単位/30時間 老人薬理学 慢性疾患薬理学	
病態生理学 単位数/時間数	3単位/45時間 老人診断・治療学 フィジカルアセスメント特論	1単位/15時間 小児診断・治療学	1単位/15時間 精神診断・治療学	2単位/30時間 老人診断・治療学 慢性疾患診断・治療学	
演習 単位数/時間数	2単位/30時間	2単位/30時間	1単位/45時間 + 7日間	4単位/60時間	
実習 単位数/時間数	8単位/360時間	8単位/360時間	8単位/360時間	8単位/360時間	
全教員・指導者数 (高橋 医師の教員・指導者数)	34人(9人)	38人(13人)	52人(22人)	74人(18人)	
養成数	1年次 0人 2年次 1人	2人 2人	1年次 0人 2年次 4人	2人 0人	
実習施設	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション ■その他(複合型医療施設)	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 ■診療所 □老人保健施設 ■訪問看護ステーション □その他()	

大学院名(分野名)	A-13 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所(慢性期)	A-14 順天堂大学大学院 医療看護学研究所(慢性期)
本養成課程のねらい ・目指す特定看護師 活動の場・分野 ・実施内容 ・効果	<p>・生活習慣病を中心とした慢性疾患患者に対し、医師の包括指示のもと、患者へのヒアリングやフィジカルイグザミネーションそして検査等による病状の把握と確認、必要な薬剤の選択・使用等の疾患管理及び診察前のトリアージや状態悪化時の対応等の行為を行なうことができる特定看護師の育成をめざす。</p> <p>・活動の場としては病院や老健施設、訪問看護ステーションを予定している。</p> <p>・当課程を修了することにより、今までの看護教育では学びきれなかった患者の病態や治療について実践的な知識を体系的に学ぶことができ、安全を担保しつつも医療により積極的に関わることができる職種の新規育成ができる。そのことにより、医療の充実に貢献できると考えている。</p>	<p>・当課程では、慢性期分野での国民のニーズに応えるため、自律した判断と実践能力を備えた看護師の育成を目指している。</p> <p>・病院において、慢性病を持つ、成人・高齢者への対応として、医師の包括的指示のもとフィジカルアセスメントを実施し、必要に応じて検査による病状の把握、必要な医療処置の実施、病状のモニタリングを実施する。</p> <p>・このことにより、迅速に病態の変化等の対応を行うことが可能となり、患者の症状の早期改善、患者・家族の不安の軽減等、サービスの向上につながり、患者のQOLや満足度の向上につながるものと考えている。</p>
必修科目と単位数・時間数	44単位/1,080時間	36単位/750時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	4単位/60時間	10単位/150時間
臨床薬理学 単位数/時間数	6単位/90時間	4単位/60時間
病態生理学 単位数/時間数	4単位/60時間	8単位/120時間
演習 単位数/時間数	4単位/60時間	8単位/120時間
実習 単位数/時間数	14単位/630時間	6単位/270時間
全教員・指導者数 専任 准専任の教員・指導者数	633人(573人)	93人(23人)
専任数 1年次 2年次	12人 8人	2人 3人
実習施設	■病院 □診療所 □老人保健施設 ■訪問看護ステーション □その他	■病院 □診療所 □老人保健施設 ■訪問看護ステーション □その他

大学院名(分野名)	A-15 聖路加看護大学大学院 看護学研究所(老年)	A-16 聖路加看護大学大学院 看護学研究所(小児)
本養成課程のねらい ・目指す特定看護師 活動の場・分野 ・実施内容 ・効果	<p>・本課程では、老年看護分野での老年期の国民ニーズに応えるため、自律した判断と高度看護実践能力を備えた看護師の育成を目指す。</p> <p>・高齢者ケアの現場において、慢性疾患をもつ高齢者、病状が急変した高齢者に対しフィジカルアセスメントに基づき、医師の包括指示にもとづいて必要とされる検査・薬剤・治療方針等を判断し、それらを実施し結果を評価するといった一連の看護の提供によって、老年期の対象者に対して病態の変化等への迅速な対応と、予防的看護介入を行い、高齢患者の疾患や症状の増悪予防、早期改善、高齢患者と家族の不安の軽減等、生活の質、および満足度の向上をはかる。</p> <p>・効果 ○病状の増悪回避、入院回避、入院した高齢者の早期退院 ○安定療養の継続、不安等の早期改善 ○終末期高齢者の安らかな療養生活と看とりの実現</p>	<p>・当課程では、小児看護分野でのプライマリケアにおける子どもや家族のニーズにこたえるため、小児科外来や健康診査の場において、自立した判断と実践能力を備えた看護師の育成をめざしている。</p> <p>・具体的には、医師の包括的指示にもとづいて①健康な子どもの健康診査や予防接種の実施と育児支援、②基礎疾患をもたない子どもの身体診査によるトリアージの実施と薬剤選択、家庭でのケア内容の決定と指導、③状態が安定している慢性疾患児の定期受診時の身体診査の実施、日常生活指導の実施など、である。</p> <p>・個々の子どもの健康を継続的に支援することにより、子どもの健康維持・促進、親・家族の育児能力の向上を図り、休日・夜間の一次救急受診者の減少、親の育児不安の軽減、児童虐待の早期発見と予防などに貢献する。</p>
必修科目と単位数・時間数	45単位/915時間	38単位/930時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	2単位/30時間	4単位/90時間
臨床薬理学 単位数/時間数	2単位/30時間	2単位/30時間
病態生理学 単位数/時間数	4単位/60時間	6単位/90時間
演習 単位数/時間数	6単位/180時間	4単位/120時間
実習 単位数/時間数	6単位/240時間	8単位/360時間
全教員・指導者数 専任 准専任の教員・指導者数	31人(6人)	43人(15人)
専任数 1年次 2年次	0人 1人	3人 2人
実習施設	■病院 □診療所 □老人保健施設 ■訪問看護ステーション □その他	■病院 □診療所 □老人保健施設 ■訪問看護ステーション ■その他、複合型医療施設

大学院名(分野名)	(A-17) 聖路加看護大学大学院 看護学研究科(精神)	(A-18) 聖路加看護大学大学院 看護学研究科(在宅)
本養成課程のねらい ・目指す特定看護師 ・活動の場・分野、 実施内容 ・効果	<p>・精神障害者の地域生活への移行および継続を支援するために、アウトリーチチームに対する医師の包括的指示を受けて、専門的な知識と技術を持ち、精神症状の増悪ならびに身体合併症を予防し、悪化を防ぎ、薬物療法をはじめとした精神科専門療法を支援できる特定看護師(仮称)を育成する。</p> <p>・精神科地域ケアにおける薬物療法をより効果的に行うことを援助し、精神障害者の生活に支障をきたす有害作用を未然に防止することが可能となる。</p>	<p>・当課程では、在宅看護分野において療養者が抱える疾患とそれに影響される生活を多面的にアセスメントする力を持ち、医療・看護・介護など様々な視点から療養者の生活を吟味し、地域での他職種連携を重視した医療システムを構築していくことのできる看護師を養成することを目指している。</p> <p>・自宅において、フィジカルアセスメントを実施し、医師の包括的指示に基づいて必要な検査、処置、薬剤の投与、衛生材料の提供、病状説明を行うことにより、迅速に病態の変化に対応することが可能になれば、連絡調整時間の短縮に伴い、患者・家族の苦痛が早期に緩和され、サービスの向上につながると思われる。</p>
履修終了時の到達目標 時間数	32単位/720時間	32単位/720時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	2単位/30時間 フィジカルアセスメント	2単位/30時間 フィジカルアセスメント
臨床薬理学 単位数/時間数	2単位/30時間 臨床薬理	2単位/30時間 臨床薬理
病態生理学 単位数/時間数	4単位/60時間 診断・治療学 病態生理学	4単位/60時間 診断・治療学 病態生理学
演習 単位数/時間数	6単位/180時間	6単位/180時間
実習 単位数/時間数	6単位/270時間	6単位/270時間
全教員・指導者数 (再掲: 医師の教員・指導者数)	46人(13人)	37人(4人)
養成 数	1年次 2年次	1年次 2年次
養成数	1人 0人	1人 2人
実習施設	<input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 老人保健施設 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 老人保健施設 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> その他()

大学院名(分野名)	(A-19) 聖路加看護大学大学院 看護学研究科(周麻酔期)	(A-20) 千葉大学大学院 看護学研究科(がん)
本養成課程のねらい ・目指す特定看護師 ・活動の場・分野、 実施内容 ・効果	<p>・当課程では、麻酔チームの一員として、麻酔科指導医の包括的指示のもとで麻酔下の患者の管理ができる看護師の育成を目指している。</p> <p>・術前ならびに麻酔の導入、維持、覚醒の各段階での生体反応の評価ができ、安全な麻酔と手術の遂行に必要な処置(薬剤投与量の調節、人工呼吸の調節、各種患者モニター機器の設定等)を、麻酔科医の包括指示のもとで実施できること、また術後の疼痛評価ができ、鎮痛剤の選択と投与量の調節を、麻酔科医の包括指示のもとで実施できることを目指す。</p> <p>・術前術後の患者・家族への適切な麻酔の説明ができ、患者・家族が治療に専念できる状況を整える役割につながる。</p>	<p>・がん看護の領域において、根拠に基づいて卓越した看護実践を行い、研究成果に基づいて看護職者のケアを向上させるために教育的機能を発揮し、ケア提供者に対してケアのコンサルテーションを行い、そこにかかわる保健医療福祉チームの間でキュアとケアが調和するようにコーディネーションや患者の立場から倫理的調整を行うことができる、高度な看護実践能力をもつ看護師をめざしている。</p> <p>・がん医療の場、特に外科外来、がん薬物療法通院治療室、退院調整のための地域医療連携室と連携、緩和ケアチーム内における全人的患者・および家族の支援に関わる。</p> <p>また、疼痛緩和およびがん薬物療法のため患者アセスメント、病状のモニタリングを実施し、医師の包括的指示のもと薬物の調整等を行う。</p> <p>・これらの役割が発揮されることにより、患者満足度の向上、看護師の看護実践力の向上、他職種との連携強化により医療の質の向上が図られる。特に、これまで十分に行えなかった外来での患者の苦痛および治療のリスクの早期発見が可能となり、外来での患者満足度が向上する。</p>
履修終了時の到達目標 時間数	44単位/960時間	43単位/910時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	2単位/30時間 フィジカルアセスメント	1単位/30時間 ナーシングフィジカルアセスメント
臨床薬理学 単位数/時間数	2単位/30時間 臨床薬理	2単位/20時間 腫瘍薬学(e-ラーニング)
病態生理学 単位数/時間数	4単位/60時間 診断・治療学 病態生理学	2単位/30時間 臨床腫瘍学英論(e-ラーニング)
演習 単位数/時間数	10単位/300時間	4単位/120時間
実習 単位数/時間数	6単位/270時間	6単位/270時間
全教員・指導者数 再掲: 医師の教員・指導者数	30人(20人)	79人(60人)
養成 数	1年次 2年次	1年次 2年次
養成数	1人 0人	5人 7人
実習施設	<input checked="" type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 老人保健施設 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> その他()	<input checked="" type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 老人保健施設 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> その他()

大学院名・分野名	(A-21) 東京医療保健大学大学院 看護学研究科(クリティカル)	(A-22) 徳島大学大学院 保健科学教育部(がん)	大学院名・分野名	A-23) 新潟大学大学院 保健学研究科(慢性期)	(A-24) 日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科(慢性期)
本養成課程のねらい	<p>・急性期にある患者、ハイリスク患者に対して医師と連携を図り、自律的にタムリーに医療(ケアとキューア)を提供できる判断力と実践力を備えた特定看護師(仮称)を養成する。</p> <p>・「クリティカル領域」の特定看護師(仮称)は、総合病院の救急外来では、必要な緊急検査も行き包括的にアセスメントし、直ちに医師の診察・治療が必要な患者を判別し、自らも初期的なマネージメントを行う。ICUやCCUでは、人工呼吸器装着患者等を包括的にアセスメントし、酸素投与量の調整、抜管の時期の判断・抜管などを実施する。</p> <p>・クリティカル領域の特定看護師(仮称)の活動により、患者の満足度、症状の早期改善、状態悪化の防止、術後の早期回復等に繋がる。</p>	<p>・当課程では、がん看護領域において、がん医療チームの一員として卓越した看護の知識・技術を駆使して自律的かつ専門的に看護の役割を遂行し、がん患者・家族のQOL向上に貢献できる看護師の育成をめざす。</p> <p>・病院において治療・療養過程にあるがん患者に対してフィジカルアセスメントを実施し、医師の包括的指示のもと検査による状態把握や必要な医療処置を行う。</p> <p>・このことにより、患者の苦痛や治療による有害事象に迅速に対応することが可能となり、患者の状態悪化の予防、症状の早期改善、患者・家族の苦痛緩和等サービスの向上につながるかと考えている。</p>	<p>・慢性疾患看護分野の特定看護師(仮称)を養成する。</p> <p>・病院の外来(呼吸器系)の場で、外来診療実習を中心とし、慢性呼吸不全患者(主に在宅酸素療法患者、非侵襲的陽圧療法患者)や睡眠時呼吸症候群(SAS)などの慢性呼吸病患者を対象とし、医師の包括的指示のもとに、患者の病態把握の検査・呼吸機能、運動負荷検査、終夜睡眠ポリグラフ検査、血液ガス分析、血液生化学検査、画像検査など、上記に基づく適切な薬剤の選択・使用、酸素療法の実施、人工呼吸器療法などを実施する。</p> <p>・このことにより、患者のQOL向上、患者診療の人材確保など貢献するものと考えている。</p>	<p>・慢性期分野の特定看護師(仮称)の育成を目指す。</p> <p>・病院・外来・在宅での慢性疾患患者の自己管理への支援、治療マネージメント。自己管理の実行と継続が困難なケースに対して、治療の変更・修正を含めた生活調整の支援を実施する。自己管理の知識を教授するだけでは、大部分の患者が自力で自己管理を実行するのは困難であり、十分に診断・治療の知識を得た特定看護師(仮称)が、患者の生活習慣や強いこだわりに配慮し、薬物の調整を含めた支援をする。</p> <p>・効果は、患者の自己管理(インスリン療法、食事・運動療法、服薬等)に対する行動変容、認知の変化、感情の変化となって現れる。慢性疾患患者の自己管理が可能となり、良好な疾患コントロールが得られる。</p>	
必修科目と単位数・時間数	53単位/1500時間	37単位/855時間	44単位/840時間	43単位/1,050時間	
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	6単位/150時間 診察・診断学特論(包括的健康アセスメント) フィジカルアセスメント学演習 臨床推論	2.5単位/38時間 がんの臨床検査・病理検査・放射診断学 ストレス緩和ケア看護学特論Ⅱ 緩和ケア特論	6単位/90時間 成人看護学特論Ⅱ 成人看護学演習Ⅱ 臨床検討	3単位/45時間 フィジカルアセスメント 慢性看護学特論Ⅱ	
臨床薬理学 単位数/時間数	2単位/30時間 臨床薬理学特論	1単位/15時間 がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学	4単位/60時間 臨床薬理学 臨床検討	2単位/30時間 臨床薬理学	
病態生理学 単位数/時間数	3単位/75時間 人体構造機能論 クリティカル疾病特論	5単位/75時間 臨床看護学入門 悪性腫瘍の管理と治療 ヒューマンサイエンス(形態と機能)	4単位/60時間 病態生理学 臨床生理学 臨床検討	2単位/30時間 臨床生理学	
演習 単位数/時間数	13単位/390時間	11単位/166時間	4単位/60時間	7単位/210時間	
実習 単位数/時間数	14単位/630時間	6単位/270時間	14単位/420時間	10単位/450時間	
全教員・指導者数 高橋 医師の教員・指導者数	85人(52人)	68人(34人)	97人(56人)	41人(14人)	
養成数	1年次 21人 2年次 0人	1人 4人	1年次 1人 2年次 2人	2人 2人	
実習施設	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	

大学院名(分野名)	(A-25) 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(慢性期)	(A-26) 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(がん)
本養成課程のねらい ・目指す特定看護師 活動の場・分野、 実施内容 ・効果	<p>・慢性病者の包括的アセスメント、症状緩和、疾病予防のための教育的支援、社会資源の活用など慢性看護に関する高度な知識・技術を用いて、医師の包括的指示のもと生活習慣病の一次予防・二次予防・三次予防に関わる特定の医行為及び在宅治療の継続を支援するために必要な特定の医行為に関する能力を習得した特定看護師(仮称)(慢性期)を高度実践看護コース(慢性看護学分野)において養成する。</p> <p>・医師の包括的指示に基づいて、糖尿病患者への血糖降下薬、インスリン製剤等の調整、足病変予防のための診断と治療薬の調整、脂質異常症への一次予防・二次予防治療を実施する。医師との共同によるチーム医療の推進によって、安定期にある糖尿病患者の早期の悪化予防処置の実施や服薬の調整ができるようになる。</p>	<p>・がん看護に関する高度な知識、技術を用いて医師の包括的指示のもと、がんの予防や健康教育とともに、がん治療に伴う看護及び治療後の生活調整を支援し、がん患者が体験する症状、精神的苦痛の緩和やがん終末期ケアが提供できる高度な能力を修得した特定看護師(仮称)(がん看護)を高度実践看護コースにおいて養成する。</p> <p>・がん患者の治療管理、症状マネジメントを医師とのshared-decision makingにより促進する。外来などでルチエンの治療を行う患者群に対してヘルスアセスメントをこなし、包括的な指示のもとに検査、治療遂行を判断する。医師の診察前に実施することで患者サービスの向上、医師の時間節約をねらう。</p>
履修科目・単位数・時間数	36単位/840時間	38単位/840時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	2単位/30時間 看護ヘルスアセスメント	2単位/55時間 看護ヘルスアセスメント
臨床薬理学 単位数/時間数	2単位/30時間 ベッドサイドの臨床薬理	6単位/124時間 ベッドサイドの臨床薬理 がん看護学 緩和医療学
病態生理学 単位数/時間数	9単位/135時間 看護生体機能学特論Ⅰ 看護病態学特論Ⅰ 生活機能看護学特論Ⅰ 運動処方論 臨床判断過程論	12単位/224時間 看護生体機能学特論Ⅰ 看護病態学特論Ⅰ 放射線治療 緩和医療学 薬の処方・NPの役割 生活機能看護学特論Ⅰ 症状緩和論 臨床判断過程論 がん看護学
演習 単位 時間数	6単位/120時間(選択科目含む)	4単位/120時間
実習 単位 時間数	6単位/270時間	6単位/270時間
全教員・指導者数 (両科 医師の教員・指導者数)	83人(20人)	84人(20人)
養成 数	1年次 2人 2年次 0人	1年次 5人 2年次 7人
実習施設	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション ■その他(複合型医療施設)

大学院名(分野名)	(A-27) 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(老人)	(A-28) 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(小児)
本養成課程のねらい ・目指す特定看護師 活動の場・分野、 実施内容 ・効果	<p>・当課程では、老人看護分野での社会のニーズに応えるため、高度な判断と実践能力を備えた看護師の育成を目指している。</p> <p>・病院や長期ケア施設において、医師の包括的指示のもと、虚弱高齢者、認知症高齢者の健康管理に関する包括的アセスメントと症状コントロールのための調整と判断を行うことにより、療養患者の個人の生活に合わせた医療内容の調整や状態悪化時の早期の対応が可能となる。</p> <p>・また、急変時の病態の変化に応じて、医師の包括的指示のもと検査による病状の把握、必要な医療処置の実施、病状のモニタリングといった一連の行為を行うことが可能となり、患者の早期改善、患者・家族の不安の軽減など患者のQOLや満足度の向上につながる。</p>	<p>・成長発達を基盤にこどもの心身の反応に対し適切な看護支援を行う上で、医師の包括的指示を受け、治療に伴う生活調整や健康教育を行う。特に小児がん、手術、慢性疾患の領域において症状、精神的苦痛の緩和ケアが提供できる特定看護師(仮称)(小児看護)を高度実践看護コースにおいて養成する。</p> <p>・がん、手術、慢性疾患の診療領域において、治療管理、症状マネジメントを医師との協働より促進し、質の高い診療・療養環境を提供する。</p> <p>・外来では定期的な治療やフォローアップを行う患者群に対してヘルスアセスメントを実施し、包括的指示による検査、治療遂行を判断する。必要な診療時間の確保、短時間で効率的な生活指導体制など質の向上に寄与する。</p>
履修科目・単位数・時間数	36単位/750時間	34単位/810時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	4単位/60時間 看護ヘルスアセスメント 老人健康生活論	2単位/120時間 看護ヘルスアセスメント 小児身体アセスメント
臨床薬理学 単位数/時間数	2単位/30時間 ベッドサイドの臨床薬理	2単位/30時間 ベッドサイドの臨床薬理
病態生理学 単位数/時間数	8単位/120時間 看護生体機能学 看護病態学特論Ⅰ 老人看護方法論Ⅱ 臨床判断過程論	11単位/228時間 小児発達判断過程論 小児看護方法論Ⅱ 臨床判断過程論 看護生体機能学特論Ⅰ 症状緩和論 看護病態学特論Ⅰ
演習 単位 時間数	4単位/120時間	8単位/360時間
実習 単位 時間数	6単位/270時間	6単位/270時間
全教員・指導者数 両科 医師の教員・指導者数	78人(15人)	35人(17人)
養成 数	1年次 0人 2年次 1人	1年次 3人 2年次 2人
実習施設	■病院 □診療所 ■老人保健施設 ■訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()

大学院名/分野名	(A-29) 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(母性)	(A-30) 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(精神)
本養成課程のねらい	<p>・本課程は、母性看護学分野における対象のニーズに応えるために、対象の状態を自律して判断し、状況に応じた看護実践が適切かつ効果的に行い得る看護師の育成を目指している。</p> <p>・妊娠・出産・産褥と心身共に大きく変化する対象を抱える医療施設において、医師の包括的指示のもと、妊産婦のヘルスアセスメントにより正常からの逸脱状況を早期に発見し、逸脱状況に伴う症状や不快症状、ならびに治療による副作用を迅速かつ適切にコントロールし、対象が体験する症状や精神的苦痛の緩和を図る。</p> <p>・自律して、症状の増悪予防や症状マネジメントなどを実施することにより、安全で安心できる出産・育児環境を保障し、新たな命を迎える家族に安寧をもたらす。</p>	<p>・精神障害者医療(精神障害者とその家族に対する入院治療および退院支援、訪問看護等による地域生活支援)もしくはリエゾン精神医療(身体疾患を有する患者の入院治療におけるメンタルヘルス支援)の領域において、高度な専門知識と技術を用いて医師や精神保健福祉士、臨床心理士、薬剤師等の多職種と連携・協働できる能力を修得した特定看護師(仮称)(精神看護)を高度実践看護コースにおいて養成する。</p> <p>・特に薬物療法、訪問看護の活用、認知行動療法の実施等に関して、医師との連携・協働により、ケアの質の向上とケア体制の改善に寄与し得る人材の育成をめざしている。</p>
目標とする特定看護師活動の場・分野、実習内容、効果		
修得する科目・単位数・時間数	34単位/720時間	34単位/930時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	2単位/30時間 看護ヘルスアセスメント	4単位/60時間 精神健康論 看護ヘルスアセスメント
臨床薬理学 単位数/時間数	2単位/30時間 ベッドサイドの臨床薬理	4単位/60時間 精神看護方法論Ⅱ ベッドサイドの臨床薬理
病態生理学 単位数/時間数	7単位/105時間 母性援助論Ⅰ 看護生体機能学特論Ⅰ 看護病態学特論Ⅰ 臨床判断過程論	10単位/150時間 精神健康論 心理療法原論 臨床判断過程論 看護生体機能学特論Ⅰ 看護病態学特論Ⅰ
演習 単位数/時間数	4単位/120時間	2単位/30時間
実習 単位数/時間数	6単位/270時間	6単位/270時間
全教員・指導者数 (専任・准専任の教員・指導者数)	83人(20人)	22人+実習施設の医師数 10人+実習施設の医師数
専任教員 1年次	1人	1人
2年次	1人	5人
実習施設	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()

大学院名/分野名	(A-31) 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(在宅)	(A-32) 北海道医療大学大学院 看護福祉学研究科(プライマリ・ケア)
本養成課程のねらい	<p>・当課程では、在宅看護分野での国民のニーズに応えるため、自律した判断と実践能力を備えた看護師の育成を目指している。</p> <p>・在宅療養者宅において、フィジカルアセスメントを実施し、必要に応じて検査を実施することによって、迅速に病態の変化等の対応を行うことが可能となり、患者の症状の早期改善、患者・家族の不安の軽減等、サービスの向上につながるものと考えている。</p> <p>・また、虚弱な在宅療養者や病態が変化した在宅療養者への対応として、医師の包括的指示のもと①検査による病状の把握、②必要な医療処置の実施、③病状のモニタリングとといった一連の行為を行うことが可能となり、患者のQOLや満足度の向上につながるものと考えている。</p>	<p>・プライマリ・ケア分野での地域住民のニーズに応えるため、医師と協働して医学的診断・治療を行うことができ、疾病予防を推進できる看護師の育成を目指している。</p> <p>・地域、特に医師不足が問題となっているエリアにある病院、老健施設、又は診療所において、プライマリ・ケア、特定健診・人間ドックなどの検診や、対がんセンターなどでのがん検診を実施する。また訪問診療も活動の場として想定している。</p> <p>・考えられる効果として、医療へのアクセス向上や、専門的治療への橋渡しを行うことで、医療提供の効率化を図ることが可能となる。また、疾病予防・管理に視点を置いた人材を育成することで医療費の削減に貢献でき、患者のQOL向上、患者・家族の医療に対する満足度の向上が期待できる。</p>
目標とする特定看護師活動の場・分野、実習内容、効果		
修得する科目・単位数・時間数	34単位/840時間	48単位/1,200時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数	2単位/36時間 看護ヘルスアセスメント	2単位/30時間 フィジカルアセスメント特論
臨床薬理学 単位数/時間数	2単位/30時間 ベッドサイドの臨床薬理	2単位/30時間 薬理学特論(高度実践看護)
病態生理学 単位数/時間数	10単位/150時間 看護生体機能学特論Ⅰ 看護病態学特論Ⅰ 在宅看護援助論 臨床判断過程論	2単位/30時間 病態治療論(高度実践看護)
演習 単位数/時間数	6単位/180時間	4単位/60時間
実習 単位数/時間数	6単位/270時間	16単位/720時間
全教員・指導者数 (専任・准専任の教員・指導者数)	77人・18人	60人・16人
専任教員 1年次	0人	6人
2年次	2人	0人
実習施設	□病院 ■診療所 □老人保健施設 ■訪問看護ステーション □その他	■病院 ■診療所 ■老人保健施設 ■訪問看護ステーション □その他()

特定看護師(仮称)養成 調査試行事業 実施課程概要(2) (修得を目指す医行為)

※ 本資料中の課程番号は次の課程名に対応しています。

(A) 修士課程 調査試行事業 16大学院 32課程

- A-1 大分県立看護科学大学大学院 看護学研究科(老年)
- A-2 大分県立看護科学大学大学院 看護学研究科(小児)
- A-3 大阪府立大学大学院 看護学研究科(急性期)
- A-4 大阪府立大学大学院 看護学研究科(がん)
- A-5 岡山大学大学院 保健学研究科(がん)
- A-6 熊本大学大学院 保健学教育部(精神)
- A-7 慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科(老年)
- A-8 高知女子大学大学院 看護学研究科(がん)
- A-9 高知女子大学大学院 看護学研究科(老人)
- A-10 高知女子大学大学院 看護学研究科(小児)
- A-11 高知女子大学大学院 看護学研究科(精神)
- A-12 高知女子大学大学院 看護学研究科(在宅)
- A-13 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科(慢性期)
- A-14 順天堂大学大学院 医療看護学研究科(慢性期)
- A-15 聖路加看護大学大学院 看護学研究科(老年)
- A-16 聖路加看護大学大学院 看護学研究科(小児)
- A-17 聖路加看護大学大学院 看護学研究科(精神)
- A-18 聖路加看護大学大学院 看護学研究科(在宅)
- A-19 聖路加看護大学大学院 看護学研究科(周麻酔期)
- A-20 千葉大学大学院 看護学研究科(がん)
- A-21 東京医療保健大学大学院 看護学研究科(クリティカル)
- A-22 徳島大学大学院 保健科学教育部(がん)
- A-23 新潟大学大学院 保健学研究科(慢性期)
- A-24 日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科(慢性期)
- A-25 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(慢性期)
- A-26 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(がん)
- A-27 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(老人)
- A-28 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(小児)
- A-29 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(母性)
- A-30 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(精神)
- A-31 兵庫県立大学大学院 看護学研究科(在宅)
- A-32 北海道医療大学大学院 看護福祉学研究科(プライマリ・ケア)

(B) 研修課程 調査試行事業 1研修機関 3課程

- B-1 日本看護協会 看護研修学校(救急)
- B-2 日本看護協会 看護研修学校(皮膚・排泄ケア)
- B-3 日本看護協会 看護研修学校(感染管理)

